

## 「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業」最終評価結果表

研究領域等	研究領域1 日本と諸地域との関係性の解明—協働に向けて—
研究課題名	アジアのなかの中東：経済と法を中心に
責任機関	一橋大学
研究代表者	加藤 博（大学院経済学研究科・教授）
研究期間	平成18年度～平成22年度
主に研究対象とする国名	（エジプト）（ヨルダンほか東アラブ諸国） （イエメンを含む湾岸諸国）

## 総合評価

- S. 所期の研究計画以上の取組が行われた。  
 A. 所期の研究計画と同等の取組が行われた。  
 B. 概ね所期の研究計画と同等の取組が行われたが、一部で当初計画以下の取組もみられた。  
 C. ある程度所期の研究計画と同等の取組が行われたが、当初計画以下の取組もみられた。  
 D. 所期の研究計画以下の取組であったが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられた。  
 E. 総じて所期の研究計画以下の取組であった。

## 〔コメント〕

本研究は中東と日本との相互の認識と評価においてズレが大きいことを踏まえ、そのミスマッチの実態を把握し、それを克服するための学際的、地域横断的な新しい研究領域を開拓することにより、日本と中東地域との関係性を解明し、将来の相互理解と協働に向けた提言を行うことを目的とした。

このような位置づけを踏まえた本研究は、日本と中東地域のニーズを把握し、世論調査、世帯調査、経済調査など両地域間にみられた基礎的な知識不足を満たす共同調査・研究を行い、その研究目標に応じた研究成果を得、またその公開も進んでおり、高く評価できる。

しかしながら、このような調査をどのように解析し、どのような学術的な成果を出すかという観点では、まだ発展の余地は大きいと思われる。

総じて、本研究を通じてこれまで疎かであった中東地域における中央統計機関や専門家とのネットワークの構築が進み、また我が国において研究者・専門家の協力が進められ、地域研究とその研究体制を推進するという本事業の趣旨が十分達成されたと評価するとともに、今後も社会的・政策的ニーズを意識した更なる研究が推進されることを期待したい。

### 項目ごとの評価

1. 本事業の目的及び研究領域等の趣旨に合致した研究が実施されたか。

- A. 十分実施された                       B. 概ね実施された  
 C. ある程度実施された                       D. あまり実施されなかった  
 E. 実施されなかった

[コメント]

本研究の趣旨とする、基礎的な調査に基づく日本と中東地域との間における関係性の解明は、意識調査や社会調査において十分に実施されたと評価できる。

また、経済と法の観点からも、綿密に計画された調査・研究が実施され、金融、産業などの我が国の社会的そして政策的ニーズと結びついた研究が十分に実施されたとと言える。

2. 設定されている社会的・政策的ニーズに応える形で研究が実施されたか(研究の過程)。

- A. 十分実施された                       B. 概ね実施された  
 C. ある程度実施された                       D. あまり実施されなかった  
 E. 実施されなかった

[コメント]

研究課題の設定と研究手法について、社会的・政策的ニーズが適切に設定され、それに応じて十分に実施された。経済と法との観点からこれら社会的・政策的ニーズに応える研究課題が採用され、十分に実施され、成果の公開も進んでいる。

中東地域の中央統計機関との共同研究、国際シンポジウム開催、内外での研究協力などネットワーク作りも進み、また援助関係者、ビジネス関係者との知見の共有もはかられ、社会的・政策的ニーズに十分応えて、研究が準備、実施されたと評価できる。

中東地域での関係国機関との研究協力は制約が多いが、着実に実行されたとと言える。

3. 社会的・政策的にニーズに応える研究成果が創出されたか。

- A. 十分創出された                       B. 概ね創出された  
 C. ある程度創出された                 D. あまり創出されなかった  
 E. 創出されなかった

[コメント]

各調査・共同研究とも計画に従い着実に実行され、その解析も進み、それらの研究成果は十分に創出されたと評価できる。

これらの研究成果は我が国の研究者・専門家に新たな中東理解をもたらしつつあり、またその研究成果の公表・公開は積極的に実行され、学会、講演会、国際ワークショップ・シンポジウムを通じて、幅広いステークホルダーにある程度の還元と普及がされていると思われる。

4. 学術的に高い水準が確保されているか。

- A. 十分確保されている                 B. 概ね確保されている  
 C. ある程度確保されている             D. あまり確保されていない  
 E. 確保されていない

[コメント]

意識調査・世論調査等は高い研究意識に裏付けられ、調査分析手法の学術水準も高く、今後も社会的・政策的ニーズを満たしながら、継続的な研究が行われることが期待される。社会調査に関しても様々な制約がありながら、学術水準を概ね確保していると思われる。

統計的調査に基づいた研究は中東地域においては極めて貴重であり、今後内外の研究者・専門家とのネットワークをさらに強化し、現今の中東の政治・社会・経済の急激な変動をも見通すような研究を推進することが長期的に期待される。